

クラス	106	担当教員	<div style="text-align: center;"> <small>のぐち かずしげ</small>  <b>野口 一重</b> </div>
		テーマ	<b>保健医療政策</b> これからの日本の厚生行政について国際比較などを行いながら議論します
		<b>著書・論文</b>  <b>研究課題等</b>	<b>【著書】『DRG』</b> 単著、日本医療企画、2000. Jan.、総ページ数 170、『医療白書』共著、日本医療企画、1997.Oct.、総ページ数 333(担当：第 1 章 保健・医療・福祉の連携の中で資源の適正配分を目指す、pp.1-15)、『健康管理概論』共著、光生館、1996、総ページ数 222(担当：健康教育、pp.132-138、健康診査、pp.145-156) <b>【論文】</b> 「診療所の診療科パターンと患者紹介の関連性に関する一考察」共著、病院管理 Vol.13 No.3、1994、pp.249-260、「ネパール王国カブレ郡における病院受診に影響を及ぼす要因」共著、民族衛生 Vol.65 No.3、1999、pp.136-145、「DRG を採用しなかったイギリス」単著、週刊社会保障 Vol.53 No.2053、1999. Sep.、pp.60-61、「DRG を最も早くから導入したポルトガル」単著、週刊社会保障 Vol.53 No.2054、1999. Sep.、pp.60-61、「地域医療における痴呆患者・現状と将来」共著、モダンフィジシャン Vol.18 No.4、1998. Apr.、pp.435-438
<b>ゼミナール概要</b>			
キーワード：医療、行政、政策			
<p><b>目的、内容、方法等：</b>内容、方法とも詳細はゼミを運営していく中で合議の上で決めていけば良いと考えているが、基本的な方向性としては以下のとおり。</p> <p>日本以外でながく生活したり、罹患して医療の世話になったりしたことが無い場合には気づかないことが多いのであるが、わが国における医療や保健の定義や概念は諸外国のものとは異なっていることが多い。しかし、我々は日常的に「医療」などの既存のシステムをごくあたりまえのものとしか認識していないため、自国の医療について有り難味を感じていないばかりでなく、将来の「理想的」な「標準の医療像」などについてもしばしば方策を見失っているのが実状である。このゼミにおいては、医療における先進的な事例やシステムの内容について情報を共有し、新たなアイデアの適用可能性を議論することによって、保健医療システムの将来像について検討することが目標である。</p> <p>具体的には以下の項目のいくつかについて、情報収集（文献やデータの収集、および自己学習）を経て議論を行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の保健医療システムの現状と問題点について</li> <li>2. 日本の医療政策や医療行政の現状とあり方について</li> <li>3. 日本の地域における保健医療行政の実態について</li> </ol> <p>理想的な最終目標としては、集約した結果が学会などの公の場で公表することが可能であれば最高である。そこまではできないとしても、少なくともゼミのホームページ上には活動実態だけでなく、ゼミ生としての意見や考え方などを掲載できるようにしていきたい。ゼミの内容上、単純な座学ではないことも予想され、そのためゼミ生には以下の作業や負荷が発生することが考えられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献や資料の輪読と発表、およびそのための資料作成</li> <li>2. 情報の入力と分析作業</li> <li>3. ゼミホームページの改変作業</li> <li>4. 時間外の学内外における打ち合わせ</li> </ol> <p>以上、かなり堅苦しく大仰に書いたが、基本的にはフレンドリーに楽しくやっていきたいと思っている。何事も面白くなければ、その人にとっては「負荷」になってしまうからである。</p> <p>授業の評価は、以下の点について総合的に評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席状況（何回出ればよいという問題ではない。必要ときに必要な連絡を取ることも含まれる。）</li> <li>2. 提出物の提出状況（内容だけでなく、期限や形式を厳守しているかどうか。）</li> <li>3. ゼミ時のコミュニケーション状況（無駄話もよくないが、無言も駄目。約束事について守れること。）</li> </ol> <p><b>授業計画：</b>前項で説明したとおり、基本的にはゼミ生の要望等を勘案して合議で決めていく予定である。ただし、これまでの経験上もれなく、日本の医療制度のことや、そもそも医療とは何か、主張や論証はどのように行うかなど、基本的な知識に欠けているので、初年度は輪読や調べもの、プレゼンテーションの訓練などを行う必要があると考えている。前期後期とも、少なくとも1回ずつは、輪読や調べもののプレゼンテーションを行う予定。</p>			
使用テキスト	担当教員からのメッセージ		
	本ゼミは「小ぶりの授業」でもなければ、先生がタメになる面白い話しをしてくれる「ご講話の時間」でもありません。したがって、座っていれば何とかかなと思っている学生には不向きです。自分から「調べたい・掘り下げたい」ことがすでにある、あるいは興味のあることそのものを「探したい」と思っているなど、何らかの意欲に満ちている場合にはとても適したゼミだと思います。		